

2 「次期の見通し」

(1)連結（通期）

売上高は、電気事業において減少することから、減収となる見通しです。

支出面では、電気事業において、支払利息の負担減などがありますが、売上高の減少により、経常利益及び当期純利益はほぼ前期並となる見通しです。

(2)個別（通期）

販売電力量はほぼ前期並と予想されますが、他電力への販売電力料が減少することなどにより、売上高は減収となる見通しです。

支出面では、有利子負債の削減に努めてきたことなどによる支払利息の負担減などがありますが、売上高の減少により、経常利益及び当期純利益はほぼ前期並となる見通しです。

次期業績見通し

(単位：億円；概数)

	連 結		個 別	
	中間期	通 期	中間期	通 期
売 上 高	7,200 [3.4%]	14,400 [1.2%]	6,900 [3.3%]	13,600 [1.8%]
経 常 利 益	920 [32%]	1,000 [1%]	960 [29%]	1,000 [2%]
当 期 純 利 益	570 [33%]	620 [1%]	610 [28%]	640 [2%]

(注) 1 []は対前年同期増減率

2 上記の予想は、現行の電気料金に基づいており、電力市場における競争の本格化に対応して、時期・幅等は未定ですが当該年度下半期中に電気料金の値下げを実施する予定であることから、下方修正する可能性があります。

(当社における前提となる主要諸元)

	中間期	通 期
販 売 電 力 量	380億kWh程度 [2.5%]	752億kWh程度 [0.2%]
為 替 レ ー ト	130円/\$ 程度	
原 油 C I F 価 格	25\$/b 程度	

(注) []は対前年同期増減率

「財政状態」

「キャッシュ・フローの状況（連結）」

当期の営業活動によるキャッシュ・フローは、平成12年10月実施の電気料金値下げの影響などにより、前期に比べ 5.5%減の3,905億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資の増加などにより、前期に比べ21.2%増の3,387億円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、社債及び長期借入金などの有利子負債の削減額が減少したことなどにより、前期に比べ41.4%減の675億円の支出となりました。

以上により、当期末の現金及び現金同等物の残高は、前期末に比べ21.8%減の531億円となりました。